

2022 年成長する企業は？

皆さん、明けましておめでとうございます。旧年中は弊グループ社員が大変お世話になり、誠に有難く厚く御礼申し上げます。今年の干支は「壬寅(みずのえとら)」。「壬」は妊に通じて、陽気を下に妊(はら)み、「寅」は蟻(みみず)に通じて春の草木が生じるという意味があります。要するに成長の新しい風が吹くという事。

2022 年は、コロナパンデミックも癒えて、アフターコロナ時代が始まるのではないのでしょうか？(オミクロン株の変異が最後で、COVID-19 ウイルスは死滅する可能性)そこで、アフターコロナで勝ち抜く企業はどのような企業になるのでしょうか？

中国は、第 14 次 5 年計画に記載されている重点事業を粛々と進めて行きますが、その重点産業は以下の 9 つになります。

- ① 教育産業(義務教育に該当する分野は除く)、② 医療・シルバー産業、
③ 科学技術産業、(AI、IT、ビッグデータ、ロボット)、④ サービス業(金融、証券、保険)、⑤ 交通産業(自動運転技術)、⑥ 農業、⑦ 環境ビジネス(水・空気・土壌汚染処理)、⑧ 飲食・小売業、⑨ 通信・インターネット

皆さんの企業が上記産業に該当しなくても、心配無用！！その対策方法ですが、

企業環境	対 策
上記の産業に入っていないが、上流又は下流に自社は位置する	上流、下流に位置していれば、その恩典は受けられる。但し、得意先、仕入先を拡大させる必要があり、拡大させたい対象企業のソーシングと分析が必要
上記の上流、下流に位置していない企業(外部要因での拡大は図れない=従来の方法では生き残れない！！)	<ul style="list-style-type: none"> ① 中国国内の納入先の拡大を図る(但し、自社製品の優位性をアピールして拡大しないと、付加価値は拡大しない) ② 企業の付加価値を如何に上げて行くかを考える <ul style="list-style-type: none"> ・日本人駐在員を削減して、中国人幹部に事業を任せる(管理は日本人が行う) ・給与体系を見直し、日給月給制から業績給与制に変更する。(賞与は、利益の 25%は企業所得税を納税、75%の半分を賞与に還元するぐらいのインセンティブを付ける) ・固定費を徹底的に見直し、無駄を省く(テレワーク導入による家賃、残業代、交通費などの削減)

アフターコロナに向けて、しっかりとした対策を練って、スタートダッシュを掛けましょう！！



wechat アカウントはこちら